

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 問題文自体の分量は減っているが、設問内に同一出典の別個所の文章が 1 ページ強の分量で掲載されているため、全体的な分量は例年どおり。 〈古文〉 問題文の分量・設問形式ともに例年どおりの出題。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 松沢裕作 『歴史学はこう考える』 ○行数：108 行	ランケ、マルクスとエンゲルスの歴史のとらえ方の違いを論じた文章。(二)の内容説明問題の選択肢 2 は「各時代の持つ特別な意味を探ろう」が不適當。(三)の内容説明問題の選択肢 5 は「歴史を下から叙述」が不適當。(五)の内容合致問題の選択肢 5 にある「哲学や経済学とセットで構築された歴史観」はマルクスの説明であるため不適當。 ※ (昨年度) 随筆、141 行、7 問 (7)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (鎌倉?・擬古物語) 作者未詳 『松陰中納言物語』 ○行数：21 行 ○和歌 1 首を含む	三位中将の逢瀬を成就させるために童君がめぐらせた計略が、功を奏する場面。(二)の内容説明問題は、傍線部が童君の発言であることを押さえる。(四)の現代語訳は「こうじ」「まぎれ入り」と、主格の格助詞「の」の訳出がポイント。(五)の主語確認問題は標準。敬語の種類に着目する。(六)の内容合致問題の選択肢 6 は「宇治の名所を案内」が不適當。 ※ (昨年度) 室町・御伽草子、22 行、7 問 (8)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。同志社大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	6問 (6)	5	1		4		2> 1						
二	7問 (10)	9	1		3> 1		1		3	1		2	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉</p> <p>近年、設問内に1ページ前後の文章が挿入される設問が出題される傾向にあるので、問題文を読み終えただけで油断しないこと。</p> <p>〈古文〉</p> <p>同志社大学の対策としては、さまざまな時代・ジャンルの文章にふれておくことが重要である。最終設問では、字数制限が厳しい記述問題が必ず出題されるので、端的にまとめる記述力もきたえておこう。</p>